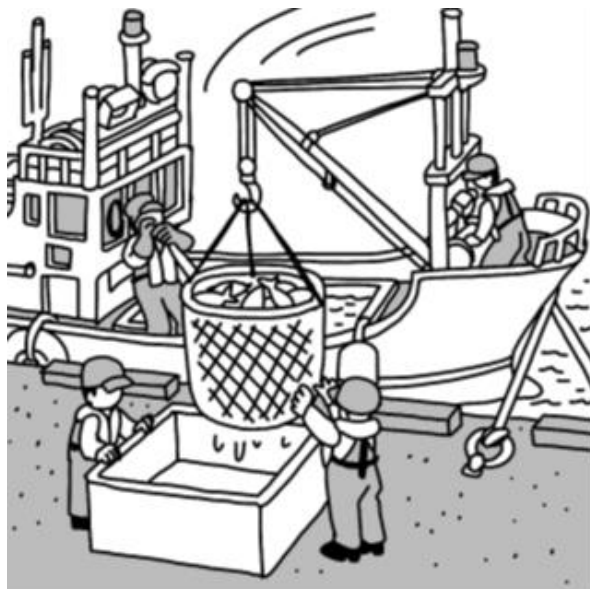


船員版

参加型職場環境改善の手引き

安全でストレスを低減する 職場環境改善のすすめ方 (令和元年版 初版)



平成30年度 厚生労働科学研究費補助金（労働安全衛生総合研究事業）
「農林水産業における災害の発生状況の特性に適合した労働災害防止対策の策定のため
の研究（30180701）」
（研究代表者 横山和仁），（水産分野分担研究者 久宗周二）
（研究協力者 吉川徹 小木和孝）

1.手引きの目的と使い方

1.はじめに

人は誰でも安全で健康に働きたいです。それはどの職種も、大きな会社でも、小さな会社でも共通の願いです。安全が守られて、健全な会社が成り立ちます。

しかし、中小企業や一次産業の職種では、資金がない、機会がない、時間がないなどの理由でおろそかになってしまうこともあります。自分たちでできることから実施する、参加型改善活動はILOが進める安全活動の一つです。船内向け自主改善活動(WIB)は、それを船内向けに応用したもので、フェリーや貨物船、漁船で効果を上げており、国土交通省は水産庁も進めています。

それに加えて、WIB 式労働安全衛生マネジメントシステムで、組織全体で安全な職場を形成していきます。さらに、自主改善をもとに健康的な職場の促進も進めています。

その考え方は船に特化したものではなく、様々な産業に応用されつつあります。

この本をご覧いただければ、その自主改善の考え方が分かるようになっていきます。ぜひ、実施して、安全で健康的な職場の構築をしてください。

2. このマニュアルで効果が期待されること

会社を経営する人はもちろんのこと、会社で働く人は誰でも、安全でストレスのない職場を求めています。しかし、それを実現しようとする、どうやって良いかわからないし、実現は難しいと考えがちです。

勉強の仕方がわからない、勉強する時間もない、自分だけ勉強しても周りについてこない、お金がないなど、ついできそうもないと感じてしまいます。本当にそうでしょうか？ 陸上より労働災害の多い船舶で、簡単なツールをつかって、全員参加で継続的に改善を実施して成果を上げている会社があります。それは船内向け自主改善活動(WIB)を導入しました。

広島県の土石運搬船会社(7隻を配乗)の会長は、WIB導入の成果を以下の様に述べています。「以前は現場を回り細かいことまで注意していた。社員におそれられていたが、それが社長の役割と考えていた。

WIBを導入して、少しずつ現場で改善することが定着してきた。2年目には全社で70件の改善が出された。

現在も船員が自主的な改善を進めている。従来は専門業者に任せていた作業も、自分達でするようになった。私自身は息子に社長を譲り会長になったが、現場の船員たちに、今までの経験を認めてもらい、各船からアドバイスに来てくれと声をかけられている。船員が自ら求めているので、いろいろな技術を伝承されている。大変ありがたいことだと思っている」。とのコメントもいただいています。

簡単でわかりやすいツールを使うことで、全員が参加することにより、意思疎通もできて、モチベーションが上がります。事業者も改善は実費だけ、チェックリストなどの書類を導入するだけなので導入しやすいようです。安全と健康面での効果が期待できます。

3. メンタルヘルス対策の側面

労働災害を防止するとともに、「メンタルヘルス一次予防策としての職場環境改善」の具体的なやり方についても効果を期待できます。安全・健康で、働きやすい職場を目指して職場環境を改善することは、従業員のこころの健康（メンタルヘルス）に役立つことがわかってきました。特に、自分たちの働く職場環境を管理者や同僚と一緒に見直して、皆で働きやすい職場環境に改善する参加型アプローチを実施すると、職場のコミュニケーションや相互支援に良い影響があることも最近の研究でわかりました。さらに、生産性に直接的・間接的に良い効果をもたらすこともわかってきました。

この手引きに沿って幅広い視点で職場環境を振り返り、自分たちの職場の強み（役立つ良い点）と自分たちの職場の働きにくさ（働きやすい職場づくりに向けて改善すべき点）に気づき、従業員同士で意見交換する場面を作り、対策指向で職場環境改善を進めることで以下の3点が達成できます。

1. 安全とこころの健康（メンタルヘルス）に役立つ、働きやすい職場が作られます。
2. コミュニケーションなどチームワークがより良くなります。
3. 仕事への意欲や生産性が向上します。

4. ストレスチェック制度と職場環境改善

ストレスチェックの目的と法的位置づけ

2015年12月に施行された改正労働安全衛生法に基づく「ストレスチェック制度」では、常時50人以上の労働者を雇用する全事業場において、年1回以上のストレスチェックの実施が事業者には義務づけられました。

ストレスチェック制度の主な目的は一次予防です。働く人のストレスの程度を把握することで、働く人個人のストレスの気づきを促し、さらに職場の環境改善につなげ、働きやすい職場づくりを進めることで、メンタルヘルスが不調となることを未然に防止します。

ストレスチェック実施後の集団分析や、職場環境改善は努力義務とされていますが、ストレスチェック制度の目的はメンタルヘルスの一次予防です。働きやすい職場づくりを進めるためには、職場の環境改善を進めることがとても重要になってきます。

- 上司、産業保健スタッフ等による相談対応、早期発見と適切な対応
- 職場復帰支援プログラムの策定、実施
- 主治医と連携
(厚生労働省、労働者の心の健康の保持増進のための指針)

<メンタルヘルス対策の新具体的取組体制整備

- 衛生委員会等での調査審議
- 心の健康づくり計画の策定



(一次予防)

メンタルヘルス不調の未然防止

○労働者のストレスマネジメントの向上

- ・教育研修、情報提供
- ・セルフケア

○職場環境等の把握と改善

- ・過重労働による健康障害防止
- ・職場でのパワハラ・セクハラ対策

○ストレスチェック等による未然防止の取組を強化

(二次予防)

メンタルヘルス不調の早期発見と適切な対応

(三次予防)

職場復帰支援

5. 「参加型活動」船員が全員で活動する意義について

船にはいろいろな船員が載っています。

同じ国の人だって、生まれ育った地域性や、育った環境によって大いに異なってきます。同じ日本人でも、北は北海道から南は沖縄まで、いろいろな習慣があり、それぞれで考え方も異なってきます。それが、同じ仕事をするわけですから、当然考え方が違ってきても仕方ありません。そのために、よく会話するなどのコミュニケーションを図る必要があります。船は協調していかなければ上手く航海できません。

エンジンをよくみてください。ピストンが音を立てて激しく動いています。しかし、ちゃんと順番通り、秩序良く動いています。みなさんがもしピストンだったら、いやだとか、むかつくだとか、頭にくるとか言って、激しく動いたり、動かずに止まっていたら船は動くでしょうか。エンジンが壊れてしまいますね。次に船全体を見まわしてみましよう。主機も、発電機も、油圧もそれぞれが大切な役割を果たしています。どれ一つ欠いても船は動きません。どれも欠かさない物です。

それなのに、主機が「俺が一番偉いんだ。俺の言うことを聞け」、発電機が「主機はただでかいだけだ。俺が一番すごい。あいつの言うことなんて聞くな」なんて言ったら、船は動くでしょうか。

船員は誰でも、船のパーツが一つでもなくなれば船が動かなくなることを知っています。だから、一つ一つの部品を大切にします。なのに、なぜ人を大切にしないのでしょうか。「あいつは若いからダメだ」、「あいつは考え方が古い」ひどい時には排除しようとしています。主機や発電機と同様に、船の乗組員も誰も欠かすことができないものです。人は好き嫌いによって「いじめる」、「無視する」などをするのでしょうか。

人のことを認めても、自分が劣ってしまうことはありません。が辞めてしまえば、それで船は動かなくなります。多少の好き嫌いがあってもみんなで話し合う機会を作るべきです。昔から人によっては、我を張ったり、偉ぶったりします。

それで相手が嫌がれば今ではハラスメントになります。いろいろ言われて、能力を発揮しなかったり、おかしくなったら大変です。

「昔はどうだった」と言わずに、新しいやり方を考えてみる必要があります。全員でよく話し合っ、船を進めましよう。また、ストレス低減するように職場環境を改善していきましよう。

2. 職場改善の進め方 参加型改善活動（W I B）プログラム

1. 改善の進め方

このチェックリストは、あなたが職場点検して改善する時の手助けになるように作られています。チェックリストを使って、安全・衛生・作業条件の改善に役立つ提案ができます。

ステップ1 良い改善事例の写真を壁に貼ってください。

参加人数分の赤と黄色のポストイットを用意してください。一番良いと思う事例に赤いポストイット、2番目に良いと思う事例に黄色いポストイットをつけて、選んでください。（または、スライドの写真に◎、○の印をつけてチェックしてください）

一番投票が多かったものが、みんなが必要と思う事例です。参考にしながら、改善案を考えてみましょう。

ステップ2 チェックリストの項目ごとに進めてください。

「今のままでよい」、「改善が必要」にチェックしてください。働いているときに、どこに頭をぶつけたか、とこで足を滑らせたか、どこで挟まれそうになったか、忙しい時、疲れている時、ふと気が緩んだ時でも・・・事故を起こす前に改善しておけば、ぶつかったり、つまずいたり、挟まれたりして怪我をしなくて済むかもしれません。

自由記入欄には、どのように直してみれば良いかなどの、アイデアを書き留めてください。

ステップ3 最後に全ての項目がチェックされているかどうか確かめてください。1～28項目のうち「改善が必要」の口に印がついている中から、優先順位が高いものを3つ選んでください。

ステップ4 それぞれの参加者が選んだ、優先順位が高い項目を3つずつ提案して、船毎に話し合ってください。グループとして優先順位を決めて、初めに優先順位の高い3項目から改善を始めましょう。

ステップ5 3つの改善が終わったら、次の3つの改善を始めましょう。

すぐに役立つ職場環境改善事例（内容は変えていきます）



図1 必要な情報はみんなでも共有する



図2. 全員でミーティングを行う



図3. 掲示板などを使って必要な情報を全員に伝える。



図4. 改善作業をする



図5. 全員で安全点検を行う

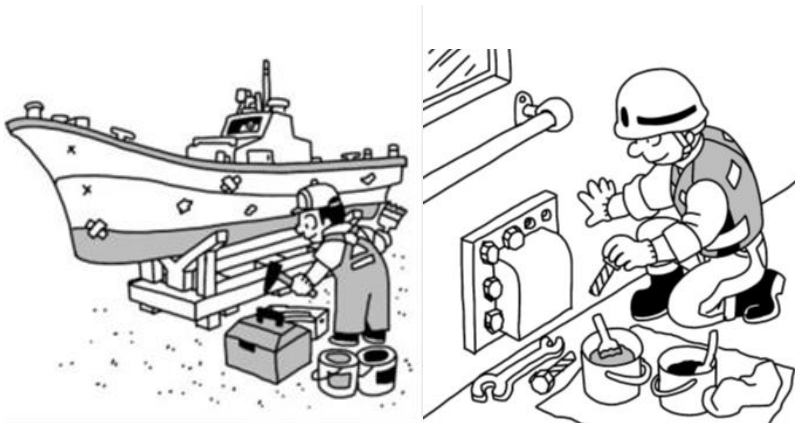


図6. 安全で安らぐ休憩場所がある。

<WIB オプション 職場見回りチェックリストチェックリスト>

このチェックリストはメンタルストレスを低減するためのチェックリストです。

現在、多く使われているメンタルヘルスチェックリストは、ストレスの度合いを測るものですが、本チェックリストは、ストレスの低減を目指して、生活を改善する対策志向型チェックリストです。併せてパワハラ改善にもなります。ぜひ、職場で活用を試みしてください。WIBチェックリストと合わせてご活用ください。









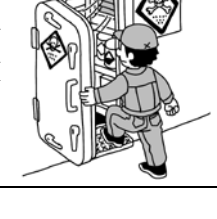
WIB チェックリスト オプション 職場見回りチェックリスト

この提案を採用しますか？

- | | |
|--|--|
| 1. 定期的にミーティングを行います。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 2. 仕事の進め方を、みんなで話し合っ
て決めるようにします。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 3.作業の分担範囲を定期的に見直して、特定の
個人に偏らないようにします。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 4. 休日や有休が確保できるように、前もって
作業を準備・調整します。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 5. 疲労した時などお互いに仕事のリカバー
するなど、相談・支援しやすい体制にします。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 6. 仕事を進める際は、お互いに協力する
雰囲気を作ります。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 7. 懇親やレクリエーションの機会を増やします。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 8. 健康やストレス軽減に役立つ情報の提供と
研修をおこないます。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 9. 会社の事業計画や改善事例など掲示版を
利用して周知されるようにしています。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |
| 10. 個人の健康や、職場内の問題について
プライバシーを保ちながら、相談できる
窓口を設置します。 | <input type="checkbox"/> すでに実施 <input type="checkbox"/> 提案します→ <input type="checkbox"/> 優先 |

W I B チェックリストも併せてご活用ください

実施日	年	月	日	実施者		
項目	今のままで良い	改善が必要	優先します	イラスト		
整理・整頓						
1. 工具、漁具などのために、使いやすくわかりやすい棚、場所を設けます。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>			
2. 人や資材が動けるように、通路を確保し、はっきりとした表示をつけます。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>			
3. 通路は、障害物やつまずくものがないよう整備します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>			
4. 工具は使いやすいように、適切な長さ、厚さ、形のものを使います。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>			
5. 置かれているものは、航海中も転倒、落下がないように整備します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>			
6. 定期的な整備、点検、清掃は誰がやるか責任者とやり方を決めてます。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>			
転倒防止						
7. 機関室や居室の床に、水、油がこぼれた場合は直ちに拭きます。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>			

項目	今のままで良い	改善が必要	優先します	イラスト
8. 滑りやすい場所は、スリップの防止をします。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
9. 階段等の転落する危険があるところには、手すりや柵を設けます。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
10. 突起物は取り除くか、カバー、警戒塗装をします。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
危険の回避				
11. ライフジャケットや保護具を着用するように声をかけたり、ポスターを貼ります。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
12. 機械の動く部分や、危険な部分には、ガードを取り付けます。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
13. 騒音が発生する機械を囲んだり、カバー、耳栓などをします。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
14. 危険物や、有害なものは保管、隔離換気などで、安全に使用します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	

項目	今のままで良い	改善が必要	優先します	イラスト
15. 高温や、低温な物に触れないようにカバーや注意書きをします。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
16. 非常停止スイッチや、停止ボタンははっきり表示します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
照明				
17. 全体照明とともに、機械の影などで見えにくい部分には、局所照明をつけます。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
18. 照明器具は、まぶしさを感じさせない方法で、取り付けます。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
係船機器、漁労機器				
19. 引っかかりたり、ぶついたりする凹凸がないよう整備します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
20. 船具、漁具等に有害な変形や損傷、腐食がないように整備します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
作業のしやすさ				
21. 表示、スイッチ操作盤は、大きさ、形、色で、簡単に見分けられるようにします。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
22. 腰を曲げたり、ひねったりする仕事がないように工夫します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	

項目	今のままで良い	改善が必要	優先します	イラスト
23. 重量物の運搬には、クレーン、台車、ローラーなどを使います。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
24. ヒジの高さで仕事ができるように高さを調整します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
情報伝達・衛生設備				
25. 始業前など、作業者が全員で参加するミーティングを行います。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
26. 掲示板などを活用し必要な情報が全員に正しく伝わるようにします。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
27. 安全で安らく休憩場所があり、みんなでコミュニケーションを図ります。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
28. トイレや、給水設備などの衛生設備があり、きれいに維持します。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
29. 直射日光を避けるための日除けや、水分補給など熱中症対策をしています。 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	
(追加項目 1)				
30 (メモ欄)	今のままで良い <input type="checkbox"/>	改善が必要 <input type="checkbox"/>	優先します <input type="checkbox"/>	

3. 実施方法

各自の調べた「改善すべき事項 3 項目」と「良好事例 3 つ」を発表して、改善すべき事項を部署（甲板、機関、サービスなど）毎に話し合いをして 3 つに絞ります。まずは、その 3 つについて実際に改善していきます。部門ごとに話し合った改善案をまとめて、様式 3 「改善活動すすめ方シート」に改善すべき内容（Plan）、いつ、どのように実施するかを記入します。会社と話し合っ必要資材や修繕を手配してください。

実際に改善が終われば、「BEFORE（改善前）」、「AFTER（改善後）」の写真を取り「改善活動すすめ方シート」を記入して、チェックリストとともに保管をしましょう。さらに船内での改善事例を写真に撮り、良い事例として船内に掲示されれば乗組員の改善意識の向上につながります。

初めに挙げた 3 つの改善が終わったら、次の 3 つの改善項目を選んで継続的に実施します。




乗組員全員でチェックリストによる点検を定期的（年数回）に実施して、改善活動を継続的に行います。

改善が終われば、「BEFORE」「AFTER」の写真を取り、チェックリストとともに記録として残しましょう。これによって、改善活動の書類の保管とともに、船員の改善意識の向上を目指します。初めに挙げた 3 つの改善が終わったら、次の 3 つの改善する項目を選んで取りかかります。その、3 つの改善が終わったら次に取りかかり、このようにして継続的に実施します。さらに、乗組員全員でチェックリストによる点検を定期的（年 1 回以上）に実施して、改善活動を継続的に行ってください。

ワークシート、計画シート、報告シートを一体化した「進め方シート」の例

改善活動すすめ方シート					
実施日	年 月 日	船名	丸		
メンバー					
優先順位	改善内容	改善計画		改善結果	
		実施日 (実施予定)	備考 (必要な物など)	実際の改善内容	写真
1					
2					
3					

(記入例)

改善活動すすめ方シート				
実施日	2014年6月1日	船名	〇〇丸	
メンバー	甲野甲太郎、乙野乙子、丙野丙二郎			
改善内容	改善計画		改善結果	
	実施日 (実施予定)	備考 (必要な物など)	実際の改善内容	写真
甲板の床が滑るので、滑り止めをつける	11月13日~30日 (11月中旬)	ペンキ〇〇内× 〇缶 滑り止め〇〇内 ×〇缶 専門店で購入	サンド入りのペンキを塗装	
頭上に頭をぶつける甲→クッション材と注意喚起	7月22日 (7月中旬)	ウレタン〇〇内 トラマーク色の ガムテープ 〇〇内 ホームセンター で購入	頭上にウレタンを付ける トラマークの テープを付ける	
工具が整理・整頓されなくて、わかりづらい	6月24日 (6月下旬)	ベニア板〇〇内 L字フック〇〇 内 ホームセンター で購入	工具がわかりやすいように、 大きい順に並べる	

3. WIB 式 船内労働安全衛生マネジメントシステム

WIB は船員向け自主改善活動 (Work Improvement on Board) の略

1. 実施内容

目標

労働災害の防止と健康増進、さらにすすんで快適な職場環境を作り、職場の安全衛生水準の向上を目的とした安全衛生管理の仕組みです。ILO (国際労働機関) の労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) を基に、国土交通省が船内労働安全衛生マネジメントシステムガイドラインを作成しています。

方法

事業者は労働者の協力のもとに「計画 (Plan) - 実施 (Do) - 評価 (Check) - 改善 (Act)」(「PDCA サイクル」といわれます) で安全衛生管理を継続的、自主的に進めることです。

WIB 式の特徴

中小の事業者でもシステムができるように、合理的、かんたんに考えられたものです。

WIB 方式の導入のメリット

- ・ 働く人の労働安全衛生の意識が高まり、労働災害の減少・疾病の減少が図れます。
- ・ 労働安全衛生活動の記録を組織的に残し、会社の管理責任を明らかにできます。
- ・ 社内外に対して取り組みをアピールすることができます。
- ・ (サポートと、認証するシステムについて現在検討中)
- ・ 中小の事業者でも無理なく、効率的にシステムが運用できます。

会社の役割

表明・目標・組織・計画等洋式は A4 版一枚にまとまっています。マニュアルを読めば経営者と担当者で 1~2 時間で記入できるようになっています。

年度末のふりかえり、次年度の計画も同様に、マニュアルを読めば、経営者と担当者で 1~2 時間で記入できます。方針、目標、計画の作成ができましたら、一定期間掲示して船員さんの意見を聞き、必要に応じて修正をしてください。その他は、法令で定められた書類の作成と保管、通常は打ち合わせの度に、簡単な記録 (10 分程度で記入) を議事録に記入するだけです。

船員の役割

年に一度以上、WIB チェックリストによる改善案の提案をする事と (30 分程度)、提案した改善案の中で自分たちが直せるものは、時間が空いた時に船内を改善していきます。(必要な資材は会社負担) 自分達では難しい、専門的で、大規模な修繕などは専門業者が実施します。

その他、必要に応じて労働安全衛生の提案をして、健康診断や、病気の治療を積極的に受けます。

2. 概要 早わかり解説

マネジメントシステム構築の意義及びガイドラインの目的

労働災害の防止をはかるとともに、船員の健康づくり及び快適な作業環境を作ります。それには、船員が自主的に危険から身を守るように予防をします。

船内の安全衛生水準を継続的に向上させるために、船員の協力の下で、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルをベースとした船内の労働安全衛生マネジメント体制を構築していきます。

*書式1をA3版一枚にコピーして、**記入例**を参考にして記入をしてください。

a. 方針の表明

会社としての、今後の長期にわたる方針を決めてください。「労働災害が起きにくく働きやすい職場を作る」、「健康で衛生的な職場環境を作る」、「労働災害の削減」など、経営者の思いを自由に、明瞭に書いてください。

b. 推進メンバー役割と責任

安全推進体制を作るために、役割、責任および権限を明確にしていきます。

社長など役職ごとに、責任と権限を明確にしてください。

(例) 社長 (総括安全衛生管理者) ○○ ○○ (全体の統括)
事務責任 (総括安全担当者) □□□□ (事務局、システムの監査)
船長 △△ △△ (船毎のリーダー)
事務 (とりまとめ)

c. 安全衛生目標

「a. 方針の表明」で示した長期的な方針を実現するためには、中期的にできるより具体的に目標を作ります。例えば「労働災害を減少させるための点検・改善の推進」、「衛生教育を行い、働きやすい環境を作る」などです。

こちらの実現が可能な事を、自由に記述してください。

d. 活動計画

目標を達成するために、具体的な計画を立てていきます。いくつかの必要な項目はあらかじめ記載されています。

ミーティングは、船の担当者と陸上の担当者と連絡や、話し合いの場です。毎月1回以上を目標にして、ミーティングを開き、議事録を残してください。(単独で会議を設定できない場合は、他の打ち合わせと併用していただいても結構です。)

議題としては下記のことなどありますが、必要に応じて話し合えば良いです。

(ヒヤリ・ハット報告、船内点検結果、改善要望等の情報の整理、同種の船舶における船員災害、海難発生状況等の報告、訪船指導、健康キャンペーンの実施、船員災害発生時の監査等)

・職場点検は、都合よい時に全員が参加で点検をしてください。船員向け自主改善活動の

チェックリスト（WIB）を使えば、1時間ほど点検で、改善案の提案までできます。全員で安全点検を行うことにより、船員の意見が反映されます。個人毎に様式1の「チェックリスト」（A3裏表1枚にして人数分コピーしてください）、点検の後の改善進める時は様式2の「改善の進め方シート」（コピーしてください）を船ごとに作成してください。詳しくは、国土交通省HP「船員向け自主改善活動」をご覧ください。職場点検で提案された改善案を、3つずつ優先順位をつけて選択して、改善を進めてください。同時に、安全や衛生の講習会も可能ならば開催してください。（講師は地元の海上保安部、消防署、保健所、労働基準監督署などの関係機関に協力をお願いしてください。）

「災害発生時の原因調査及び改善手順」や法令で定められた書類は、現状のものをよく点検してみてください。問題なければ、そのまま保存してください。（内容に不十分な点がありましたら補強してください。）

・方針、目標、計画が作成できましたら、一定期間掲示して船員さんの意見を聞き、必要に応じて修正をしてください。

e. 活動内容の確認

1年間の活動を振り返ってできたかどうか、自己点検をしてください。

まず、全体を通じて評価して、システムとして問題なかったか自己点検をしてください。次に、ミーティング、職場点検、改善の実施、講習会など項目ごとに確実にできたか、効果はどうだったか、このままのやり方で良いか、振り返って自己評価してください。災害発生した場合は、適切に原因調査及び改善できたかどうか検討をしてみてください。

f. 次の活動へ

「e. 活動内容の確認」を踏まえて、次年度に向けて、計画自体を改善して行きます。それらを、来年度の計画に反映していきます。

* 記入した様式3はA3版1枚に、その他「改善の進め方シート」などの書類はコピーを取り、船内や事務所に掲示してください。（必要に応じて船員に配布してください）

* 様式1~3の他、議事録（様式4）等は活動の記録になりますので、ファイルなどで保管をしておいてください。アクションチェックリストは個人毎にコピーを保存してください。改善活動進め方シートは船毎に記録してください。

* WIBマネジメントシステムは簡便版であり、可能ならばより高度な労働安全衛生マネジメントシステムへの移行が理想です。

様式 3 労働安全衛生マネジメントシステム

WIB 船内向け自主改善活動 マネジメントシステム

<p style="text-align: center;">方針の表明</p> <p>(1) 船内労働安全衛生方針</p>									
<p style="text-align: center;">推進メンバー</p> <p style="text-align: center;">役割と責任</p> <p>(2) システム担当者の役割、責任及び権限</p>	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">社長</td> <td>(総括安全衛生管理者)</td> </tr> <tr> <td>監督</td> <td>(総括安全担当者)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(事務局、システムの監査)</td> </tr> <tr> <td>船長</td> <td>(船毎のリーダー)</td> </tr> </table>	社長	(総括安全衛生管理者)	監督	(総括安全担当者)		(事務局、システムの監査)	船長	(船毎のリーダー)
社長	(総括安全衛生管理者)								
監督	(総括安全担当者)								
	(事務局、システムの監査)								
船長	(船毎のリーダー)								
<p style="text-align: center;">安全衛生目標</p> <p>(3) 船内労働安全衛生目標</p>									
<p style="text-align: center;">活動計画</p> <p style="text-align: center;">(実施頻度、時期)</p> <p>*書類は議事録、アクションチェックリスト、改善進め方シートは別途保存の事</p> <p>*全員で安全点検を行うことにより、船員の意見の反映が促進されます。</p> <p>(4) 船内労働安全衛生計画</p> <p>(5) 船員の意見の反映手順</p> <p>(6) 災害発生時の原因調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング (回 /月・年) ・職場点検 (チェックリストなど) (回 /月・年) ・改善の実施 (回 /月・年) ・講習会 (回 /月・年) ・災害発生時の原因調査及び改善手順、その他法令で定められた書類の作成と保管 <p>・方針、目標、計画が作成できましたら、一定期間掲示して船員さんの意見を聞き、必要に応じて修正をしてください。</p>								

<p>活動内容の確認</p> <p>*記録は別紙 同時保存</p>	<p>良くできた・ややできた・ややできなかった・あまりできなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング (回 /月・年) ・職場点検 (W I Bなど) (回 /月・年) ・改善の実施 (回 /月・年) ・講習会 (回 /月・年) ・災害発生時の原因調査及び改善手順の制定 <p>(備考)</p>
<p>次の活動へ</p>	<p>(振り返り)</p> <p>(良くすべき点)</p>

* **WIB** マネジメントシステムは簡便版であり、可能ならば労働安全衛生マネジメントシステムへの移行が理想です。

斜字・・・国土交通省労働安全衛生マネジメントシステムガイドラインに示されている
記録すべき事項

記入例

WIB 式船内労働安全衛生マネジメントシステム

<p>方針の表明</p> <p>* 安全方針</p> <p>(1) 船内労働安全衛生方針</p>	<p>・事故0</p> <p>* 事故等の発生を撲滅することを目指し、お客様の信頼に答える。</p>
<p>推進メンバー</p> <p>役割と責任</p>	<p>代表取締役 ●● ●●</p> <p>取締役 ●● ●● (安全統括責任者)</p> <p>●● ●● (運航管理者)</p>
<p>安全衛生目標</p>	<p>・改善進め方シートを使い安全性の向上を図る。</p> <p>* 労働災害を減少させるために点検・改善の推進を図る。</p>
<p>活動計画</p> <p>(実施頻度、時期)</p> <p>・書類は議事録、アクションチェックリスト、改善進め方シートは別途保存の事</p> <p>・</p>	<p>・ミーティング (1回 /月)</p> <p>・職場点検 (チェックリストなど) (2回 /年)</p> <p>・改善の実施 (随時)</p> <p>・講習会 (2回 / 年)</p> <p>・「災害発生時の連絡体制・原因調査及び改善手順」その他法令で定められた書類の作成と保管</p> <p>* ヒヤリ・ハットの収集・分析</p> <p>「ヒヤリ・ハットは航海日報へ記入する」</p> <p>・改善進め方シートの作成及び点検</p> <p>* 外部の講習会を受ける</p>
<p>活動内容の確認</p> <p>*記録は別紙</p> <p>同時保存</p> <p>*レビュー</p> <p>(全体の振り返り)</p>	<p>良くできた・ややできた・ややできなかった・あまりできなかった</p> <p>・ミーティング (1回 /月)</p> <p>各船担当者会、安全マネジメント会議</p> <p>・職場点検 (WIB など) (2回 /年)</p> <p>3月に改善進め方シートを使い点検及び改善を行う。</p> <p>・改善の実施 (随時行っている。)</p> <p>講習会 (2回 /年)</p> <p>WIB 安全講習、乗組員安全対策研修会 を受けた。</p> <p>・災害発生時の原因調査及び改善手順の制定</p>
<p>次の活動へ</p> <p>*アクト</p> <p>(今後の活動に向けて)</p>	<p>(振り返り)</p> <p>(良くすべき点) 改善の時間と予算を増やす</p> <p>改善活動の時間を増やす</p>

記入のポイント

WIB 船内向け自主改善活動 マネジメントシステム

<p>方針の表明</p> <p>(1) 船内労働安全衛生方針</p>	<p style="text-align: center;">安全で安心して働ける職場環境の構築</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>1行で良い。自分の思いを書いてください</p> </div>
<p>推進メンバー</p> <p>役割と責任</p> <p>(2) システム担当者の役割、責任及び権限</p>	<p>社長 ■■■■■ (総括安全衛生管理者)</p> <p>責任者 ■■■■■ (事務局、システムの監査)</p> <p>船長 ■■■■■</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>担当者の名前をいれてください。</p> </div>
<p>安全衛生目標</p> <p>(3) 船内労働安全衛生目標</p>	<p style="text-align: center;">労災減少のために点検と改善の推進</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>年間目標です。1行で良いです。</p> </div>
<p>活動計画</p> <p>(実施頻度、時期)</p> <p><small>*書類は議事録、アクションチェックリスト、改善進め方シートは別途保存の事</small></p> <p><small>*全員で安全点検を行うことにより、船員の意見の反映が促進されます。</small></p> <p>(4) 船内労働安全衛生計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング (1回 / 月・年 8、9、10、11、12、1、2、3、4、5、) ・職場点検 (チェックリストなど) (2回 / 月・年 6月、12月) ・改善の実施 (数回 / 月・年 適時) ・講習会 (1回 / 月・年 適時) ・災害発生時の原因調査及び改善手順 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>数字とOをつけてください。</p> </div>

<p>活動内容の確認</p> <p><small>*記録は別紙同時保存</small></p>	<p>良くできた・ややできた・ややできなかった・あまりできなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング (回 / 月・年) ・職場点検 (WIBなど) (回 / 月・年) ・改善の実施 (回 / 月・年) ・講習会 (回 / 月・年) ・災害発生時の原因調査及び改善手順の制定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>実際にできたかどうか数字と、Oを さい。できなかった場合は、なぜ?</p> <p>(備考)</p> </div>
<p>次の活動へ</p>	<p>(振り返り)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%; margin: 10px 0;"></div> <p>(良くすべき点)</p>

4. 自主改善活動・船内労働安全衛生システム導入の成功事例

1. WIB 船内自主改善活動の効果

水産庁補助事業「安全な漁業労働環境確保事業」講習会では、漁業の労働環境のカイゼンや海難の未然防止などの知識を持った「安全推進員」を養成しています。その中心に、参加型自主改善活動（POAT）をベースにした、WIB 船内自主改善活動として、良い改善事例の紹介と選択、アクション型チェックリストと改善の使い方シートの講習、可能な時は船の点検を行っています。5年間で毎年500人計2500人を養成する予定でしたが、平成25～29年度に北は北海道稚内市から、南は沖縄県那覇市まで全国約137箇所で行い、約4,758人が安全推進員となりました。

表 I 実施結果

職場カイゼン講習会実施結果						
年度	沿岸		沖合		回数	推進員
	回数	人数	回数	人数		
H25	9	520	5	89	14	609
H26	15	691	10	267	25	958
H27	27	1,013	5	183	32	1,196
H28	15	470	12	250	27	720
H29	27	924	12	351	39	1,275
合計	93	3,618	44	1,140	137	4,758
資料：(一社)全国漁業就業者確保育成センター						

また、170隻が職場点検のワークショップに参加して、228件の改善が提案されました。重点的に進んだ地域があり、島根約200人、岩手約400人が受講しました。特に、岩手県は5回の開催すべてで所管の労働基準監督署長が挨拶をして、WIBの活動を後押しして頂きました。さらに、地域によっては労働基準監督官がWIBをベースに改善計画を進めており、改善の促進とともに、作業手順の作成を行っています。さらに岩手県庁が2～3年の計画で別途予

算をつけて良い事例のモデル化をしてほしいということで、WIB と並行して改善モデルの形成と啓発、水産物の付加価値向上を目指しています。

漁業カイゼン講習会について、参加者に講習会後に無記名によるアンケート調査を行いました。平成 24～25 年度の参加者のアンケート調査では、講習会が「わかりやすさ」では、「わかりやすい」が 83.4%、「わかりにくい」は 2.5%、「どちらでもない」は 14.1%でした。「役に立った（有効性）」は 87.6%、「役に立たない」1.5%、「どちらでもない」は 10.9%でした。自主改善活動については(n=951)、「わかりやすい」「役に立った（有効性）」は 87.6%、「役に立たない」1.5%、「どちらでもない」は 10.9%でした。自主改善活動については、「わかりやすい」が 83.5%、「わかりにくい」は 2.5%、「どちらでもない」は 14.0%でした。「役に立った（有効性）」は 85.7%、「役に立たない」0.9%、「どちらでもない」は 13.4%でした。安全推進員の講習、自主改善活動のいずれにおいても「わかりやすさ」、「有効性」は高い値を示し、否定的な意見は少数でした。

講習会の後、参加者に実際に漁船の点検をして改善案を出すプログラムを 2014 年 8～10 月に 10 ケ所で行いました。110 隻が参加して、228 件（平均して一隻あたり約 2.1 件）の改善案が提案されました。

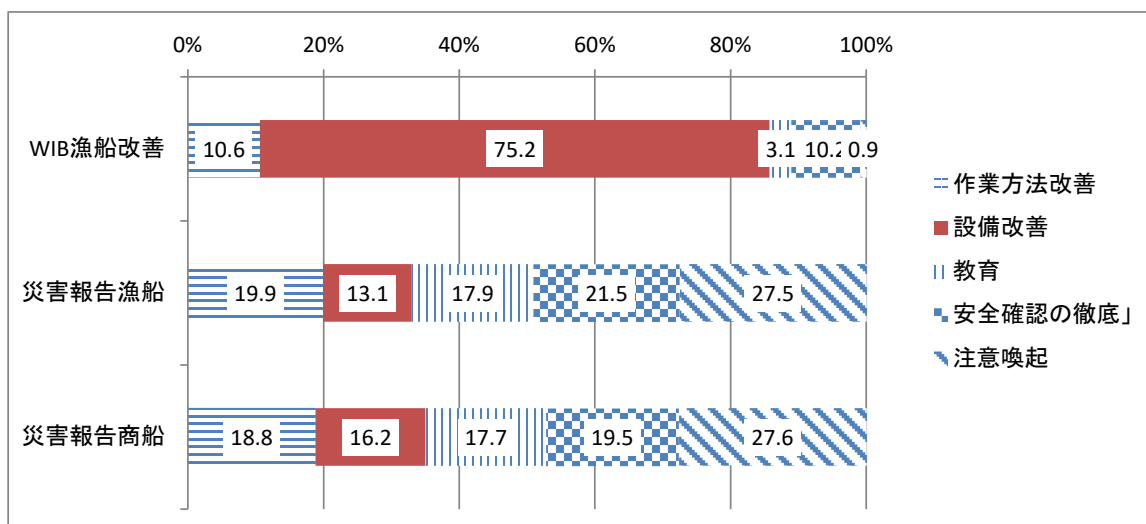
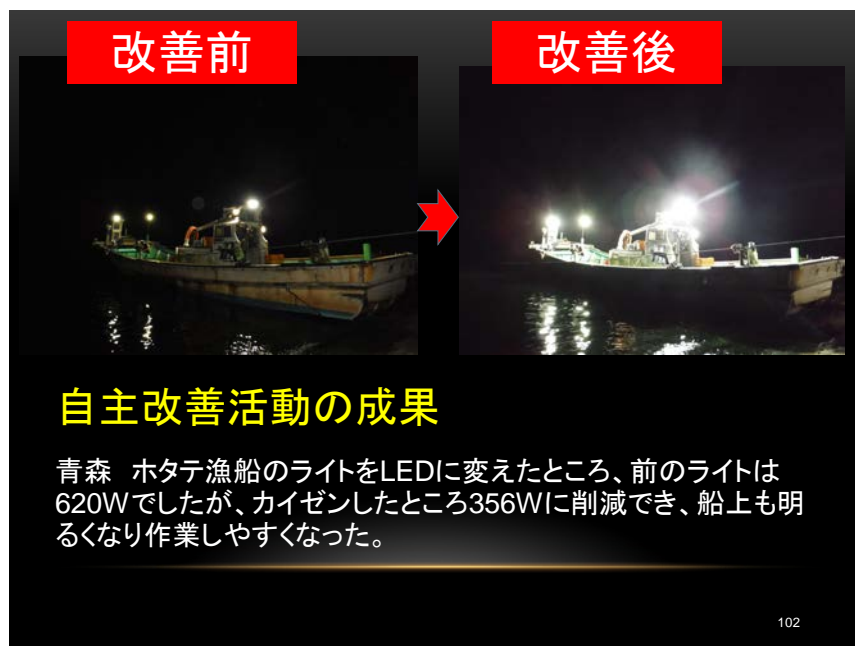


図1 改善案（事故対策案）の分析

提案された改善案を、「作業方法改善」、「設備改善」、「教育」、「安全確認の徹底」、「注意喚起」の5種類の対策に分類した結果(図10)、「作業方法改善」10.6%、「設備改善」75.2%、「教育」3.1%、「安全確認の徹底」10.2%、「注意喚起」0.9%となり、設備改善などの実用的な改善が多数を占めました。改善内容から改善に必要な費用の概算を「費用がかからない」、「費用が1万円未満」、「費用が1万円以上」の3つに分類したところ、「費用がかからない」は 31.1%、「費用が1万円未満」は 29.7%、「費用が1万円以上」は 39.2%となりました。

講習会の後も各地で自主的な改善が進められています。特に、岩手県漁連、岩手県労働局、岩手県定置網協会の協力の下、2014 年度で最も開催数、参加者数の多い岩手県では、各地で改善活動が行われ具体的な改善が行われています。さらに所管の労働基準監督署の



指導のもと、「機械操業計画」などが提出され、着実に効果が表れています。図 11 は青森県陸奥湾のホタテ漁船の改善例です。船上の照明を LED に変えることによって、足元が明るく作業しやすくなったとともに、燃費も良くなりコスト削減につながりました。

図 2 青森での具体的改善例

2 W I B 自主改善活動についての効果についての考察

船員の労働災害防止のために国土交通省、水産庁の支援により、全国で講習会を開催した。2011 年～2017 年に国土交通省に報告された「船員災害疾病状況報告書（船員法 111 条報告）」を分析し、その効果を考える。

2011 年～2017 年に国土交通省に 4564 件報告され、漁船が 2437 件、商船その他が 2127 件であった。

漁船では、2013～2017 年に漁業安全確保事業において、全国約 120 か所で約 5000 人が受講した。講習会を 2015 年以前に複数回実施した地区、一回だけ実施した地区、まったく実施しなかった地区に分類して海運支局毎に労働災害数を時系列に分析した。国土交通省の統計は漁船漁業を対象としているために、遠洋、沖合漁業を対象にした講習会を分析した。また、地区は 7 年間で災害が 40 件以上発生した海運支局を対象とした。

(1) 水産庁事業及び全日本海員組合の協力により、講習会を複数回実施した地区として、島根、鳥取、鳥羽、石巻、八戸、釧路の 6 地区であった。災害件数は 728 件であり全体の 29.9% であった。平均を見ると減少の傾向がみられた。実施前の 2011 年～2014 年の災害数の平均と、講習会実施後の安全意が向上した 2015 年～2017 年の数値を t 検定した結果、危険率 5% で有意差がみられた。

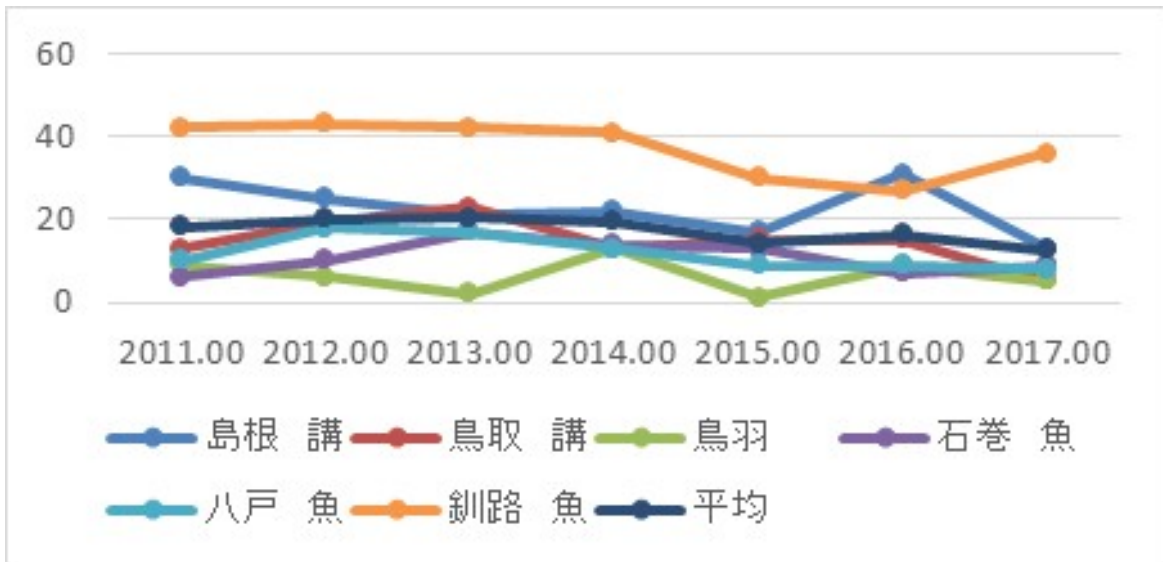


図3 複数回実施した地区の労働災害発生数 (n=728)

(2) 水産庁事業及び全日本海員組合の協力により、講習会を1回実施した地区として、長崎、鹿児島、佐世保、福井の4地区であった。災害件数は357件であり全体の14.6%であった。平均を見ると減少の傾向があまりみられなかった。2011年～2014年の災害数の平均と、講習会実施後の安全意が向上した2015年～2017年の数値をt検定した結果、有意差はなかった。

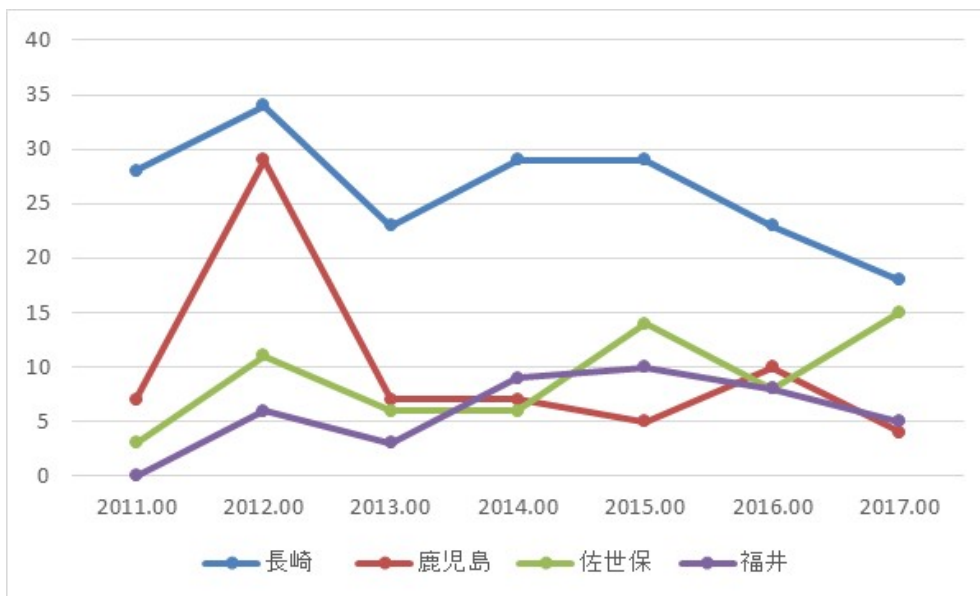


図4 1回実施した地区の労働災害発生数 (n=357)

(3) 講習会を沿岸、沖合漁業向けに一度も行っていない地区として、高知、熊本、神戸本局岡、福島、根室であった。災害件数は615件であり全体の25.2%であった。平均を見ると減少の傾向がみられた。実施前の2011年～2014年の災害数の平均と、講習会実施後の安

全意が向上した 2015 年～2017 年の数値を t 検定した結果、有意な差はなかった。

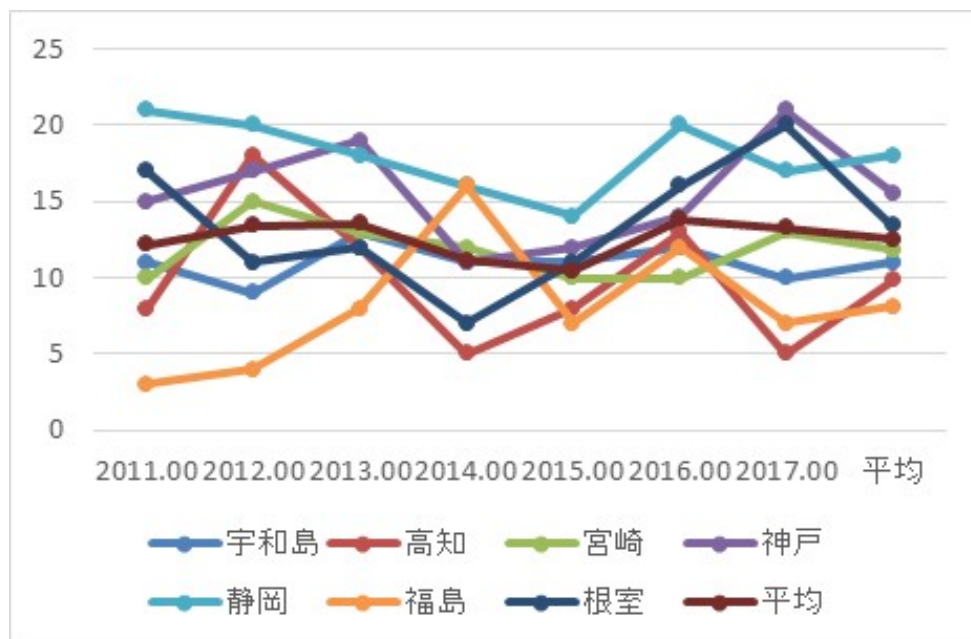


図5 実施していない地区の労働災害発生数 (n=615)

(4) 考察

講習会を実施したところ、しないところと比較したところ、実施したところは労働災害の減少傾向がみられした。もちろん各地区では、自主改善活動以外の安全活動を行っているかもしれないが、今回の分析は7年間の災害の70%を対象としていることも考えると、ある程度の効果があったと考えられる。自主改善活動は低コスト、短時間で効果が上がる方法であり、今後も未実施地区でも実施することにより、労働災害の減少に資する。商船については2015年より全国30か所で開催された。多くが運輸局単位で実施されたために、支局ごとの効果が見られなかった。

3 WIB方式 OSHMS の導入事例

WIB方式 OSHMS は一般社団法人自主改善活動 (WIB) 協会等が中心になって普及・啓発を行っています。フェリー会社が WIB 協会の認証を受ける等、いくつかの船会社などで積極的に実施をしています。さらに商船・旅客船会社は、国土交通省の運輸安全マネジメントシステムの評価を受けることが多くみられます。WIB方式 OSHMS を運輸安全マネジメントシステムの内部監査を補完する方法として検討しており、フェリー会社と作業船の運航会社の協力で得て試行をしています。そこでは WIB アクションチェックリストを改善報告として直接利用しています。

島根県浜田市の漁業会社の例を示します。船員法 111 条の報告では、浜田市の漁業会社が労働災害の発生数で島根県全体の三分の一を占めていました。会社は災害減への工夫

をしているものの、災害の減少の傾向は横ばい傾向でした。そこで、前章の WIB 方式 OSHMS を事業者に提案したところ、協力を得ました。

(1) 導入目的

事業者は漁業会社には、既に WIB 船内自主改善活動の講習は実施しています。しかし、船員の自主的な改善活動をするためには、人件費、資材の提供を船舶所有者が行わなければ、いくら現場から改善案が提案されても、船員が継続的な活動を行うことはできません。そこで、WIB 方式 OSHMS を導入して、①浜田市の漁業会社の船員災害を抑制すること、②経営トップからの指示の下で、労働災害抑制システムの構築、③災害の原因の分析をしました。

(2) 方法

船員は、短時間で簡単改善ができる WIB 講習を二回受講しました。目標を掲げ計画・実施・記録・見直しの PDCA システムの説明を受け、WIB 方式労働安全衛生マネジメントシステムを理解しました。その後、約 1 年間 WIB 方式 OSHMS を実施しました。はじめにを WIB 方式 OSHMS 様式に、方針の表明・推進メンバー役割と責任・安全衛生目標・活動計画（実施頻度、時期）に船舶所有者等が記入し、船員に周知しました。さらに船内等でミーティング等を行い船内にその書類を掲示しました。

(3) 結果

実施した結果を WIB 方式労働安全衛生マネジメントシステムの手順にしたがって示します。方針の表明(1) 船内労働安全衛生方針「安全で安心して働ける職場環境の構築」、推進メンバー役割と責任(2) システム担当者の役割、責任及び権限「社長統括安全衛生管理者) 責任者(事務局、システムの監査)、船長」、安全衛生目標(3) 「労災減少のために点検と改善の



推進」、活動計画を「ミーティング月 1 回、職場点検年二回、改善の実施年数回、講習会年 1 回、災害発生時の原因調査と改善手順」を記入しました。会社はこの方針表明及び計画を事務所内と船員がじっくり見もらえる場所として船舶のトイレに掲示しました(図 6)。

図 6 トイレ内でのマネジメントシステム計画表

計画の実施では、ミーティングは取締役会の実施に併せて行い、WIB 講習と併せて職場点検を行い、改善活動すすめ方シートを利用して改善しました。記録は、各自で保管しました。

事故内容

いつ： 1月22日 10:00頃

どこで： 五股側 Xインドラ付近

作業内容： 網橋のため ワ作と巻いていた

目撃者： 吉原秋国

症状： 右手首の打撲

怪我の処置： レー子

<原因は>
 (個人的、物理的、環境要因などでできれば詳しく)
 コットと巻く際に、ワ作と巻くため、カと挟いたのが原因。
 手を引いたら、ワ作にはひかれました。

図7 事故報告シート

船員一人ひとりに改善についてヒヤリングを行い、滑り止めなど提案のあったことを実施しました。

災害発生時の原因調査及び改善手順については、過去の船員災害についても分析して、船内のハザードマップを作成しました。災害が増えた要因として、特定の船員の一人が一年に数回も災害にあったことがわかりました。

2/Documents/海事/WIB%20management/実業資料%20おけぼのpdf

【船員自己点検、自主改善、意識向上のためのアンケート】
 船員氏名 秋国 (6 AK) 実施日 平成 29 年 2 月 3

航海中の船上生活において

1 ○危ないと思った外傷、ハットすることがあったか？
 あった・なかった あった場合、内容を教えてください

対策は何かありますか？

2 ○滑ったり、つまずいたり船内で危ないと感じた所があったか？
 あった・なかった あった場合、内容を教えてください。
足の裏の裏で、滑りやすくなるので、滑り止めの靴を履く。

対策は何かありますか？
歩く時は、気を付けて、よく滑る。

3 ○他の人から、危ないと注意されたことがあったか？
 あった・なかった あった場合、内容を教えてください。

対策は何かありますか？

4 ○他の人が、危ないと感じた作業、行動はあったか？
 あった・なかった あった場合、内容を教えてください。
ワ作と巻く時、下にいる人

対策は何かありますか？
ワ作と巻く時、下にいる人

図8 独自の事故報告書

振り返りミーティングで1年間の評価は「ややできた」に留まりました。ミーティングは月1回、職場点検はWIBを二度実施し、改善の実施は随時行いました。次の活動では、また階段から滑った者がいたので、長靴を新調するように勧め、取り替えました。ヘルメットの着用はされているが、ライフジャケットの着用が徹底されていない様子でした。

(よくすべき点)については、ライフジャケットの着用を徹底すること、腰痛発生の抑制を次の目標にしています。

船員にアンケート調査行ったところ、WIB講習については、実際に船を使用した点検は非常に役に立ちました。さらに、WIB方式船内安全衛生マネジメントシステムの導入で船員が安全に気を配るようになりました。WIB方式船内安全衛生マネジメントシステムの実施で計

画・実行・確認・見直しの仕組みがよく理解できたとの回答でした。「WIB 方式船内安全衛生マネジメントシステムの実行はあなたにとって役に立ちましたか」の問いに対して非常に役に立った旨の回答でした。怪我の分析として、ベテランより新人が目立つため、新たな乗船者に注意喚起を強化することをしました。

(5) 考察

① 船員災害を抑制では、設備の不備によるものの改善が図れました。漁網のロープ等が切れて過去に長期休暇を取ったものが少なからずおり、通常のものより長引く傾向でした。② 経営トップからの指示の下で、労働災害抑制システムの構築については、事務所と船内トイレなどに掲げて、理念と方向性を示して、船員に労働災害の抑制を印象づけました。アンケート調査においても船舶の安全には導入前と比べて気を配るようになったとの回答が多く、船員に安全を意識させるのには効果がありました。③労働災害の分析では、ハザードマップを作成し船員に危険箇所を示すことで、同様の災害を防ぐことができました。ヒヤリング等でリスクを分析し新人の教育について力を入れている点も導入後の PDCA システムが回っていると考えます。最後に安全文化を考える上で、浜田市の漁業会社が行ったようなトップダウン方式である従来の安全マネジメントシステムと、WIB 船内自主改善活動により船員全員が改善を提案して行うボトムアップシステムを組み合わせる WIB 方式労働安全衛生マネジメントシステムは、導入から二年たった 28 年度には前年度の 14 件と比べて 9 件になり、6 件に減少して休業日数を大幅に減少させたような相乗的な効果がでました。このシステムは、労働安全衛生法の精神である、自主的活動の促進に沿って、責任体制の明確化（トップの責任）自主的活動の促進（ボトムアップ）の具現化であるといえます。今後も WIB 方式船内安全衛生マネジメントシステムを普及することにより、労働災害の減少と労働環境の向上に役立てていきたいです。

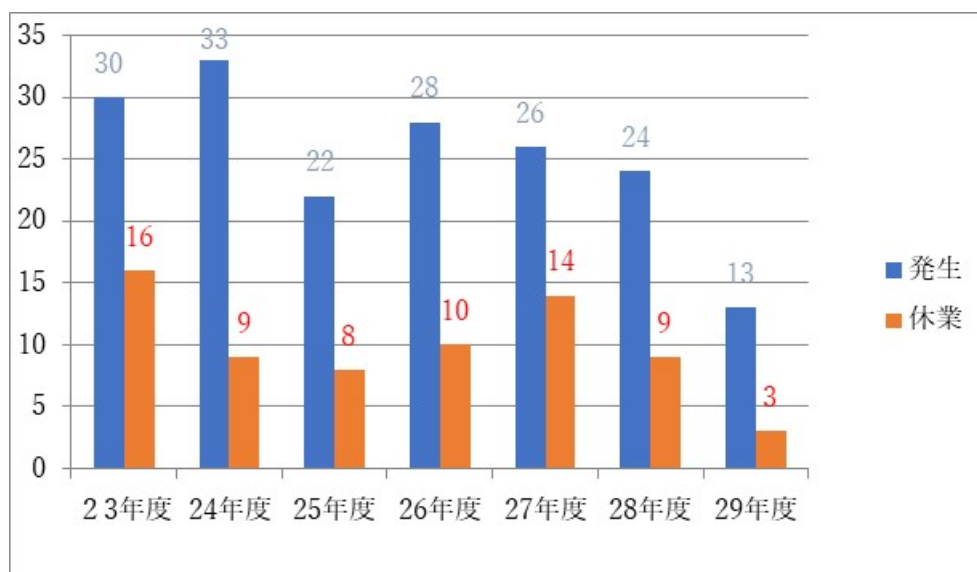


図9 労働災害の年次推移

上記の内容を取り上げた新聞記事を紹介します

安全対策「脱 これまでどおり」 発展する「漁業のカイゼン」

魚の資源量や海況など「これまで通りに」が通用しない近年、漁業者の高齢化や漁船の高船齢化も重なることで、ひとたび海難が起これば大事故になりかねない。そのため、安全操業の周知・実践が欠かせないが、これまで通りに労働基準監督官らによるトップダウン型指導から、乗組員に考えるきっかけを与え、当事者にアイデアを考えてもらう「カイゼン」の導入が進んでいる。

島根・浜田あけぼの水産 事故要因ベテランと共有 好循環生むマネジメント

「自分の職場（船）は乗組員が一番分かっている以上、働く一人ひとりが安全対策を作り、労働災害の未然防止を図ることが重要」の考え方から、久宗教授は船内向け自主改善活動 **WIB** を考案した。水産庁補助事業として平成 25 年度から始まった「安全な漁業労働環境確保事業」の漁業カイゼン講習会の運用マニュアルにも活用されている。ただし改善が単発に終わらないように計画を立案(Plan)して実施(Do)し、評価(Check)するところで改善(Act)を繰り返す「PDCA」で、労働安全衛生を継続し、発展させていくことが重要になる。

島根県のあけぼの水産（室崎拓勝社長）はよりよい操業環境を作るため **WIB** 方式船内労働安全衛生マネジメントシステムを実施している。乗組員に **WIB** 講習を受講させ、自主改善活動を理解してもらい、加えて陸上の事務局が安全方針の表明や目標、組織、活動を計画し、現場に共有、実施状況の評価して、PDCA サイクルを回していくことが狙いだ。

同社は沖合底びき網漁船（2 そうびき）を 3 か統保有するが、事故を起こしやすい船は決まっていないという。事務職員が現場で聞き取りをヒヤリ・ハットの状況を収集すると、年配の人よりも新人乗組員に多いことが分かった。これが事故につながり、けがで一人が休めばその穴を埋めようと、残った乗組員が気負うことで、新たな事故を招くことがあるそうだ。慣れていない環境で経験が浅い新人は、次に何をしたらよいか迷い、焦ることでより危険な状況が生じやすい。

分析した情報は、幹部会などを通じて乗組員と共有した。「この事実をベテランに認識してもらっただけでも大きく違う。『(新人を) 気にしてあげてね』と声をかけている」（室崎社長）という。

引用文献：日刊 水産経済新聞 2017年3月7日 P10

水産庁では漁業者の安全衛生を推進するために、漁業労働安全確保総合支援事業（2018～22）を実施しています。その内容は「漁業の労働災害発生率は、一般船舶の約2倍、陸上全産業平均の約6倍と高くなっています。災害の発生は、人命に関わる課題であるとともに、漁業に対する就労意欲にも影響することから、災害発生を減少させ、安全な労働環境づくりを推進していく必要があります。・・・漁船の安全操業等について知識を有する「安全推進員」や安全推進員等を指導する「安全責任者」を養成することで、漁業労働災害を減少させることを目的としています。」

漁船の安全操業対策等を講じるため、次に掲げる事業を実施するものとします。

- (1) 漁業労働災害調査及び労災保険加入促進事業
- (2) 安全推進員養成講習会事業
- (3) 安全責任者養成講習会事業

この中の責任者講習では、WIB方式労働安全衛生マネジメントシステムの開始と、フォローアップを行っており、現在5県8市町村で実施しており、安全衛生の意識の高揚に役立っています。

徳島

4.マネジメントシステムの進め方

黄色セルに入力

表2 WIB方式船内向け自主改善活動マネジメントシステム計画表

方針の表明	安全操業の意識改革	
推進メンバー	組合長	社長
役割と責任	理事・監事	監督
経営トップの責務、要員の責任・権限	各船主	船長
安全目標 具体的な目標	出港前点検やライフジャケットの着用呼びかけ	
活動計画(実施頻度、時期)	1 ミーティング(労働災害・運航を含む)	
	1回/年	(回/月・年)
(8) 情報伝達及びコミュニケーション	2 職場点検(労働災害・運航チェックリストなど)	
	1回/年	(回/月・年)
(7) 事故、ヒヤリハット情報の収集・活用	3 カイゼンの実施(労働災害・運航を含む)	
	1回/年	(回/月・年)
(13) 文書の作成及び管理	4 教育・訓練(労働災害・運航を含む例講習会など)	
	1回/年	(回/月・年)
(14) 記録の作成及び維持	1回/年	(回/月・年)
活動内容の確認	1.ミーティング(労働災害・運航を含む)	
*記録は別紙	1回/年	(回/月・年)
同時保存	2.職場点検(労働災害・運航チェックリストなど)	
	1回/年	(回/月・年)
	3.改善の実施(労働災害・運航を含む)	
	数回/年	(回/月・年)
	4.教育・訓練(労働災害・運航を含む例講習会など)	
1回/年	(回/月・年)	
活動の評価(自己評価)	良くできた・ややできた・ややできなかった・できなかった	
		←上から選ぶ
次の活動へ		(振り返り)
		(良くすべき点)

徳島県の定置網漁協の実施例(1)

4.マネジメントシステムの進め方

黄色セルに入力

表2 WTB方式船内向け自主改善活動マネジメントシステム計画表

方針の表明	安全操業に対する意識改革	
推進メンバー		組合長
役割と責任		参事
経営トップの意思、実行の責任・承認		船長
安全目標 具体的な目標	労災事故「0」を目指す。	
活動計画(実施頻度、時期)	1 ミーティング(労働災害・運航を含む)	
	各漁獲漁業者会にて意識付けを行う	(4回/月・年)
(注) 関係各部署とのコミュニケーション	2 職場点検(労働災害・運航チェックリストなど)	
(注) 漁船、およびバード保護の漁業-運用	各漁船にて安全対策実施事項確認	(4回/月・年)
	3 カイゼンの実施(労働災害・運航を含む)	
(注) 文書の作成及び管理	過去の労災事故事例を基本に協議	(4回/月・年)
	4 教育・訓練(労働災害・運航を含む例講習会など)	
(注) 記録の作成及び維持		(回/月・年)
活動内容の確認 ※記録は完成 同時保存	1.ミーティング(労働災害・運航を含む)	
		(回/月・年)
	2.職場点検(労働災害・運航チェックリストなど)	
		(回/月・年)
	3.改善の実施(労働災害・運航を含む)	
		(回/月・年)
	4.教育・訓練(労働災害・運航を含む例講習会など)	
		(回/月・年)
活動の評価(自己評価)	良くできた・ややできた・ややできなかった・できなかった	
		←上から選ぶ
次の活動へ		(振り選り)
		(良くすべき点)

徳島県の定置網漁協の実施例(2)

参考資料

WIBは商船（貨物船。旅客船などでも高い評価を受けています）

国土交通省第11次船員災害防止基本計画（商船の他、20t以上の漁船にも適用されます）

Ⅲ 船員災害防止のための対策

1. 実施主体別の取組（1）船舶所有者 船舶所有者は、居住環境・作業環境、労働条件の改善等総合的・計画的な船員災害防止対策を講ずるため、次により安全衛生管理活動、船内向け自主改善活動（WIB）を推進する。

2. 主要な対策の推進

（1）作業時を中心とした死傷災害防止対策 船舶所有者は、引き続き作業環境の改善や船内労働安全衛生マネジメントシステム、船内向け自主改善活動（WIB）等の災害防止の取組を推進するとともに、転倒やはさまれ等が死傷災害の大きな原因となっていることから、船員においても作業時の安全確認を行う等安全意識の向上を図る。

WIB OSHMS 成功事例 No.1

- 隠岐観光株式会社 小型フェリー1隻及び小型旅客船5隻 乗組員数 20名
- 導入以前:乗組員と管理職のコミュニケーションがうまく取れていなか管理職と船員とのコミュニケーションも良好になり、安全管理は最低限のことだけを実施していた。

導入後:WIBの講習会に全員で参加をした。その後わずか二か月間の間に20の改善例が提案された。

現在は80件の改善が実施されて、利用者からも「船がきれいになった」、「乗組員が明るくなった」と評判になった。無理なくできるので、今後も継続していく。



WIB OSHMS 成功事例 No.2

- 親力海運株式会社 土砂運搬船 5隻 乗組員数 40名

以前: ISOHSAS18001 を取るような安全に対して熱心な会社であるが、社長が現場で乗組員を叱り、現場は受け身で安全活動に取り組んでいた。活動の割には死傷災害が複数発生していた。

WIB の講習会を受けて、乗組員が積極的に自主改善活動に取り組み、2年間で180件の改善が提案された。

現在でも改善活動を積極的に取り組み、乗組員が社長にいろいろとアドバイスを受けて、良好な関係を築いている。



安全事業

水産庁補助事業「安全な漁業労働環境確保事業」漁業カイゼン講習会について

この事業は、漁業の労働環境のカイゼンや海難の未然防止などの知識を持った「安全推進員」を養成します。

「安全推進員」の活躍で、各地域の漁船の労働環境改善などが推進され、海難事故の減少を目指します。詳しくは、下記の事業案内等をご覧ください。

安全事業

[事業案内](#) 

[テキスト](#) 

[チェックリスト](#) 

[ワークシート](#) 